【議事資料1－3】

数値目標の進捗状況

数値目標（目標年度：平成32年度）			23年度	24年度	25年度	26年度	32年度（目標年度）
1	週1回以上スポーツをする市民の割合を3人に2人（**65%**）以上にします。		46．8%	48．6%	47．2%	51．4%	65%以上
2	新体力テストの結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を**50%**以上にします。	小学校	45．8%	77．1%	42．7%	57．3%	50%以上
		中学校	51．9%	37．0%	59．3%	46．3%	50%以上
		高等学校	59．3%	66．1%	59．3%	64．8%	50%以上
	全体		51．0%	63．2%	51．5%	56．4%	50%以上
3	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手の割合を**50%**以上にします。		40．5%	48．0%	45．9%	47．9%	50%以上
4	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合を**50%**以上にします。		37．2%	37．1%	37．0%	39．8%	50%以上

※ 数値目標1及び4の各年度の数値は、市民意識調査の結果によるものである。

〔数値目標の進捗状況を受けた対応について〕

【数値目標1】

市民意識調査の結果を分析したところ、平成26年度は、おおむね全ての世代で前年度を上回りました。
平成23年度以降の世代別の推移を見てみると、おおむね60歳以上の世代が約60%であるのに対して、30～40歳代の世代は約40%と低い水準で推移しています。
したがって、今後、30～40歳代の世代のスポーツ実施率のアップに向けた取組を推進していく必要があると考えます。

【数値目標2】

小・中・高全体の数値で見れば、既に目標を達成しています。

【数値目標3】

広島市選手として国民体育大会に出場したジュニア選手が、高等学校を卒業後、広島市外の大学へ進学する等した場合、広島市選手としてカウントできなくなります。
このため、広島市選手のカウント方法に、市外在住の「ふるさと選手」を含める等、検討の余地があると考えています。

【数値目標4】

市民意識調査の結果を分析したところ、平成26年度は、おおむね全ての世代で前年度を上回りました。
平成23年度以降の職業別の推移を見てみると、専業主婦の観戦率が約30%で変化がないため、専業主婦の観戦率アップに向けた取組を推進していく必要があると考えています。
また、同時に、様々な機関と連携し、地域ぐるみでトップスの応援機運の醸成を図ることも重要であると考えています。